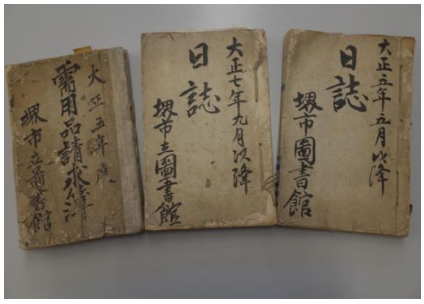
[2]創設期　大正5年（1916）～昭和9年（1934）

市民待望の図書館が宿院に

創設

堺市における図書館は、明治37年（1904）に市民の熱意で発足した「桜友文庫」（後に「戦捷記念堺図書館」、「私立堺図書館」と改称します。）の設置が始まりです。
その後、堺市は市民の熱意を受け継ぎ、大正5年（1916）に堺市立図書館を宿院に建設します。
市立図書館の創設期です。



この時代の資料には主に業務を記録した「日誌」や「需用品の購入記録」があります。

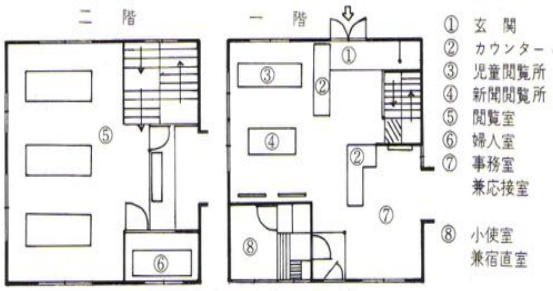
また市民などから寄贈があった和漢書なども現存して保管されています。

大正5年（1916）6月に開館した堺市立図書館

写真左端の二階建ての建物が市立図書館です。
（右側に宿院頓宮）　大正5年3月2日に起工し、同年5月25日に完成しました。
所在地は、大町東1丁24番地　宿院小公園内です。
この資料は中央図書館所蔵の絵ハガキで、当時の建物を知る貴重な資料です。

本館は木造2階建、建坪は18．56坪、書庫は煉瓦造り3階建、建坪は6坪、他計27．67坪の規模の施設で、建築費総額は、3，984円49銭でそのほとんどが、大阪電燈株式会社の寄付によって賄われました。

図書館平面図



図書館平面図（河野文吉氏・記より）

女性用の部屋が2階に別個に仕切られているのが見えます。

建築の様子、施設を視察した市会議長は、女子室が狭いことを指摘していました。

開館式・初代館長

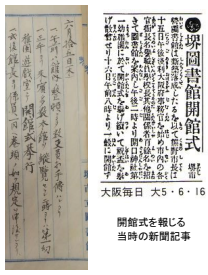
開館準備は5月中旬より始められました。

初代館長には大阪府立図書館長、今井貫一氏が嘱託として迎えられ、6月15日に開館式が挙行されました。

6月16日からは一般に開館が始まり、9時少し前に一人目の閲覧者を迎えました。

16日の閲覧者は139名、17日は208名、19日は252名。
夜間の閲覧者が多いことなどが日誌に記載されています。

初代館長　今井貫一氏



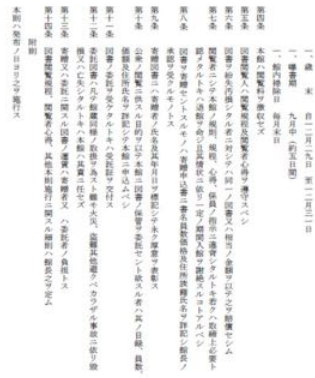
開館式を報じる当時の新聞記事

館　則

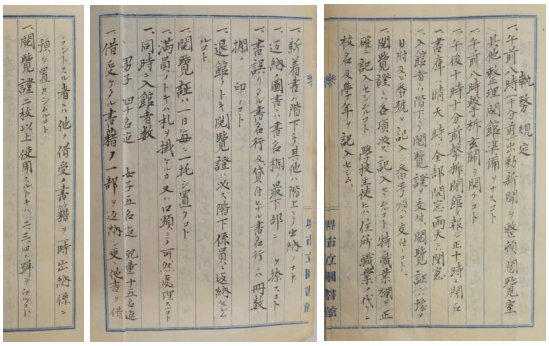
6月16日付、堺市告示第21号の館則が定められています。

第1条と4条で、図書の蒐集、公衆の閲覧に供すること、閲覧料を徴収しない事という基本のほか、事務的な事項が定められています。

後半の8条から13条は図書の寄贈についての定めで、開館当時の図書館の資料収集に対する意識がうかがえます。



執務規定



開館式の後館長からは執務規定が申し渡されました。

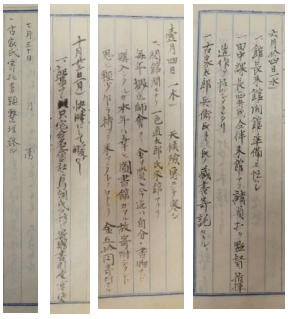
午前8時に撃柝（げきたく：拍子木を打ち鳴らす。）により開館し、閉館10分前の撃柝の合図で午後10時に閉館されます。

入館者には、閲覧證に職業や住所、学生には学校名を記載させることにしています。

同時に利用する入館者の数も決められていました。（男子40名まで女子5名まで、児童15名まで）

市民からの寄附

開館に際してや、それ以降にも個人や企業から図書や金銭の寄託や寄附を受けています。
古家太郎兵衛、一色直太郎、宅合名会社などの名前が日誌に見えます。



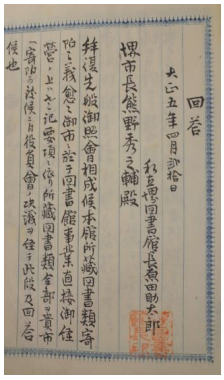
「中央図書館では、古家太郎兵衛氏等から寄贈された、主として江戸時代に出版または筆写された資料を中心に、約4，000冊の和漢書を所蔵しています。
これらの資料は、戦時中、空襲による被害を避けるため、蔵書の一部を疎開させたり、書庫に防護壁を作るなどの努力によって、1945年7月の堺大空襲で図書館全館が焼失したにもかかわらず、辛くも焼失を免れた貴重な資料です。」
（堺市立図書館だより「ゆづりは」より）

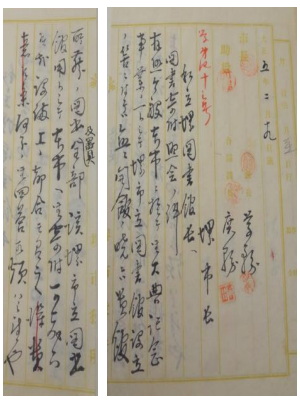
「私立図書館」からの図書などの寄附

明治37年（1904）に「桜友文庫」としてスタートし、明治39年（1906）に「戦捷記念堺図書館」と改称、公開され、明治44年（1911）には「私立堺図書館」と推移した私立図書館は児童巡回文庫、館報の発行、講演会なども行って、小規模ながら実績を積んでいました。
しかし、独立した館舎もなく、運営費も市民有志の寄附にあおぐ状況でした。

そんななか、大正2年（1913）には大阪電燈株式会社から市立図書館の新築費用として寄付金の申し入れがあり、市もそれを受け入れ、大正4年（1915）には議会の議決を得て堺市立図書館の誕生をみることになりました。

私立堺図書館はこれに呼応してその蔵書などを新設の市立図書館へ寄贈することとしました。





開館にあたり「私立図書館」の蔵書などを「市立図書館」に寄贈する際の文書です。

開館時大正5年の蔵書冊数は2,587冊でした。

大阪府立図書館からの借り入れ

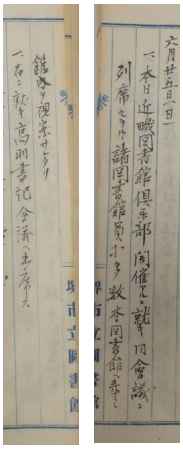
大正6年5月には、大阪府立図書館からの借り入れが始まりました。

後年作成されている「堺市立図書館沿革史」によると、大正5年の蔵書冊数は2，587冊、閲覧人数は23，057人、閲覧冊数は68，076冊（開館日数は268日）と記録されています。

大正5年の大阪府立図書館の蔵書冊数は125，271冊、閲覧人数は151，179人、閲覧冊数は543，116冊でした。

中之島百年－大阪府立図書館のあゆみ　より

近畿図書館倶楽部



開館式直後の6月25日、近畿図書館倶楽部の第4回例会が大浜公園商品陳列所楼上で開催されました。
参加者は36名。その際に市立図書館へ多数の視察があったとの記事が日誌に。

近畿図書館倶楽部は、近畿公共図書館協議会の前身で、大正2年に誕生しています。（大正11年には、近畿図書館協議会と改称され、現在は近畿公共図書館協議会となっています。）

この倶楽部結成の発意は、京都帝国大学付属図書館長　新村出、京都府立図書館長　湯浅吉郎、大阪府立図書館長　今井貫一の三氏によってなされました。

需用品請求簿

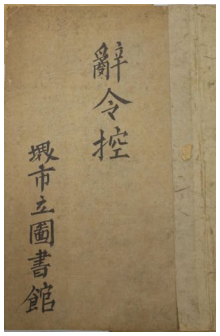
「需用品請求簿」には「無煙炭」「マッチ」「竹の皮草履」等、いろいろな購入品が記録されています
年度別の草履の購入量が大正5年100足、から大正12年、14年300足と、閲覧者数の増加が想像されます。

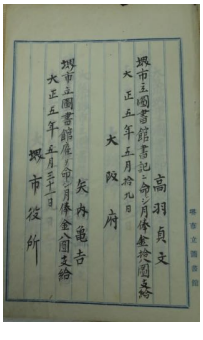
需用品請求簿（抜粋）

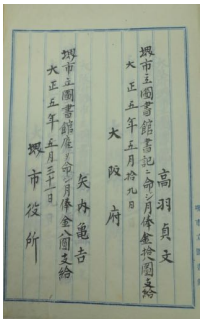
大正5		大正6		大正7		大正8		大正9	
草履	100足	草履	150足	草履	50足	草履	100足	草履	150足
木炭	11表	木炭	31表	木炭	29表	木炭	42表	木炭	35表
茶	3斤	茶	6斤	茶	5斤	茶	4斤	茶	5斤
割松	2〆	割松	3〆	割松	6〆	割松	6〆	割松	10〆
無煙炭	100斤	無煙炭	500斤	無煙炭	300斤	無煙炭	300斤	無煙炭	300斤
不易糊・糊	3瓶	不易糊・糊	2瓶	不易糊・糊	2瓶	不易糊・糊	3瓶	不易糊・糊	3瓶
ペン先	1グロス	ペン先	1グロス	ペン先	1グロス	ペン先	1グロス	ペン先	1グロス
竹箒	1本	竹箒		竹箒	1本	竹箒	1本	竹箒	2本
棕櫚箒	3本	棕櫚箒	1本	棕櫚箒		棕櫚箒	1本	棕櫚箒	1本
藁箒		藁箒		藁箒		藁箒		藁箒	4本
棕櫚/手箒	1本	棕櫚/手箒		棕櫚/手箒		棕櫚/手箒		棕櫚/手箒	

大正10		大正11		大正12		大正13		大正14	
記載なし		草履	150足	草履	300足	草履	250足	草履	300足
		木炭	35表	木炭	50表	木炭	35表	木炭	35表
		茶	6斤	茶	12斤	茶	4斤	茶	5斤
		割松	2〆	割松	10〆	割松	8〆	割松	6〆
		無煙炭	300斤	無煙炭	1300斤	無煙炭	1300斤	無煙炭	1400斤
		不易糊・糊	4瓶	不易糊・糊	5瓶	不易糊・糊	1瓶	不易糊・糊	4瓶
		ペン先	1グロス	ペン先	1グロス	ペン先	1グロス	ペン先	1グロス
		竹箒	3本	竹箒	1本	竹箒		竹箒	2本
		棕櫚箒	1本	棕櫚箒	1本	棕櫚箒	1本	棕櫚箒	1本

辞　令







創設より昭和初期の出来事

大正	5年	(1916)	5月15日　堺高等小学校で開館準備が始まる
			6月15日　開館式（第一幼稚園）
			6月16日　一般の利用始まる
	6年	(1917)	5月15日　職員の勤務形態を定める
			5月23日　大阪府立図書館より図書借入始まる
			7月　7日　図書目録を作成配布
			8月25日　函架目録記入開始
	7年	(1918)	2月28日　読書趣味普及講話会が開会される
			11月 9日　流行性感冒予防のため臨時休館（14日迄）
	8年	(1919)	8月17日　閲覧者心得を制定
	9年	(1920)	3月11日　帯出（貸出）内規作成
	13年	(1924)	市史編纂部に資料を貸与
昭和	7年	(1932)	3月　市史編纂部から資料を引き継ぐ（部の廃止）
	9年	(1934)	9月21日　室戸台風により本館が損害を受ける

大鳥・住吉神社神輿渡御

7月31日は大鳥神社、8月1日には住吉大社の渡御があり、関係者の控え所として使用されるため休館しています。
大正末期のこの写真から、市民の様子や街の熱い雰囲気がしのばれます。

堺市立図書館蔵
堺市史資料写真「住吉神輿宿院渡御之光景」

日誌には、大正6年（1917）の住吉渡御の際には、輿丁（よてい：神輿を担ぐ人）と警官の間に騒動があったことが記載されています。
「神聖な本館は罪人問拷の場所のような光景を呈した」と表現しています。

市立図書館は宿院頓宮の一角に在ったため、毎年8月1日に住吉大社から大和川を渡り宿院頓宮まで御渡りが行われる神輿渡御の控え所として使用されています。

輿渡神御

「住吉大社の神霊をお遷しした神輿行列が堺の宿院頓宮までお渡しします。平成17年より地域の皆様のお力添えにより神輿を担っての渡御が45年ぶりに複活し、昔と同じく風輦・神輿が列をなして街道をゆき、大和川では川の中を練り回り、船神輿は舟形の山車に乗せられた神輿を地元の子供たちが綱で引いて行きます。やがて御旅所である宿院頓宮に到着して祭典が行われ、飯匙堀（いいがいぼり）にて荒和大祓神事が執り行われます」　（住吉大社ホームページより）

図書館を待ち望んでいた市民

大正期、一般的な市民は「文化」、とりわけ「活字文化」に対して強い欲求がありました。 日誌のなかでは、女性や児童などの閲覧の様子・・・熱心に図書に向かう姿が、やさしい館員の目で記入されています。
また、入館者の喫煙や図書の粗雑な扱いなどに対しての対応などが書かれています。

この昭和6年の新聞記事では、当時の市民の閲覧の様子が取り上げられています。

創設期の図書館長

堺市立図書館では、創立当初より昭和12年9月まで専任の館長を置いていません。
初代の嘱託の今井貫一氏（大阪府立図書館長）以降、市の課長などの兼任でした。
また、司書は置かず、事務主任として書記および、書記心得を置きました。

宿院での創設期の歴代館長

初代	今井	貫一	（大阪府立図書館長）
2代	北村	徹	（市学務課長）
3代	前田	末喜	（市学務課長）
4代	北村	徹	（市収入役）
5代	有方	新治	（市教育課長）
6代	横山	藤吾	（市学務課長）
7代	山根	敦美	（市学務課長）
8代	長井	慶堯	（市学務課長）
9代	今西	四良	（市助役）
10代	横山	藤吾	（市学事課長）

専任の館長となったのは、昭和12年に就任した田島清館長が初です。
同時に司書を置いています。

室戸台風による図書館の被害

南洋の海上に発生した熱帯性低気圧は、昭和9年（1934）9月14日、台風に発達し、9月21日の朝には阪神付近に上陸しました。
大阪測候所の観測によると、平均風速42㍍というすさまじい記録を残し、学校その他の建造物の倒壊が続出しています。
降雨量はわずかで、水害は伴わなかったものの、気圧の急降下のため高潮を引き起こしました。堺市内では内川を超えて旧堺市内の周縁部にまで及び、市域の約3分の1は海水の被害をうけました。
堺市の被害は、統計によると、死者424名・行方不明者13名・重傷者503名・罹災者は4万5，800名にのぼり浸水面積は158万坪、家屋の被害は、全壊家屋が142世帯など計7，267世帯に及びました。
損害総額1，095万円でした。

市立図書館は、本館が使用に耐えないまでに大破し、倒壊の恐れがあるため臨時に閉館し、後に別館（書庫）だけを残して取り壊されました。
（堺市史続編第2巻）
残された写真では、窓や側面が損傷を受けている様子がうかがえます。

国への復興予算の陳情などを経て、復興計画案は昭和10年（1935）1月の市会本会議で可決されました。図書館の復興費は2万9，000円でした。

開館以来18年間、市民の文化施設として大きな役割を果たしてきたこの図書館も、この天災によって新たな図書館へバトンタッチしていきます。